

# 鳥取県内の準高冷地における夏秋どり白ネギの適品種‘源翠’

## 1 情報・成果の内容

### (1) 背景・目的

鳥取県では、白ネギ周年出荷が行われているが、9月から10月頃にかけての出荷は、夏越し時の根傷みや軟腐病等の発生により、収量が低くなりやすい。特に近年は梅雨や秋雨の影響による湿害が多く発生しており、湿害に強く夏越し性の良い品種が求められている。‘源翠’（カネコ種苗）は、夏越し後の上物収穫率が高く、安定して高い収量が見られたため、有望品種として紹介する。

### (2) 品種‘源翠’の要約

- 1) 慣行品種‘夏扇4号’に対し夏越し性が優れ、収量が高い水準で安定する。
- 2) 首の伸びが小さく、襟割れや軟腐病が少ないため、在圃性に優れる。
- 3) 下図1のような作型に適する。

○播種 ▲定植 □収穫	2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
9月どり	○							▲	▲														□	□	□						
秋冬どり				○					▲	▲																□	□	□	□	□	□

図1 適する作型

## 2 試験成果の概要

### (1) 品種比較試験

#### 1) 上物収穫率

‘源翠’は夏越し後も欠株や腐敗発生が少なく、‘夏扇4号’に比べて概ねの試験で上物収穫率が高くなった。特に、‘夏扇4号’で大きく落ち込んでいる「2020年9月どり」や「2021年9月どり」でも安定して収穫できており、高い夏越し性が期待できると考えられた（表1）。

#### 2) 収量性

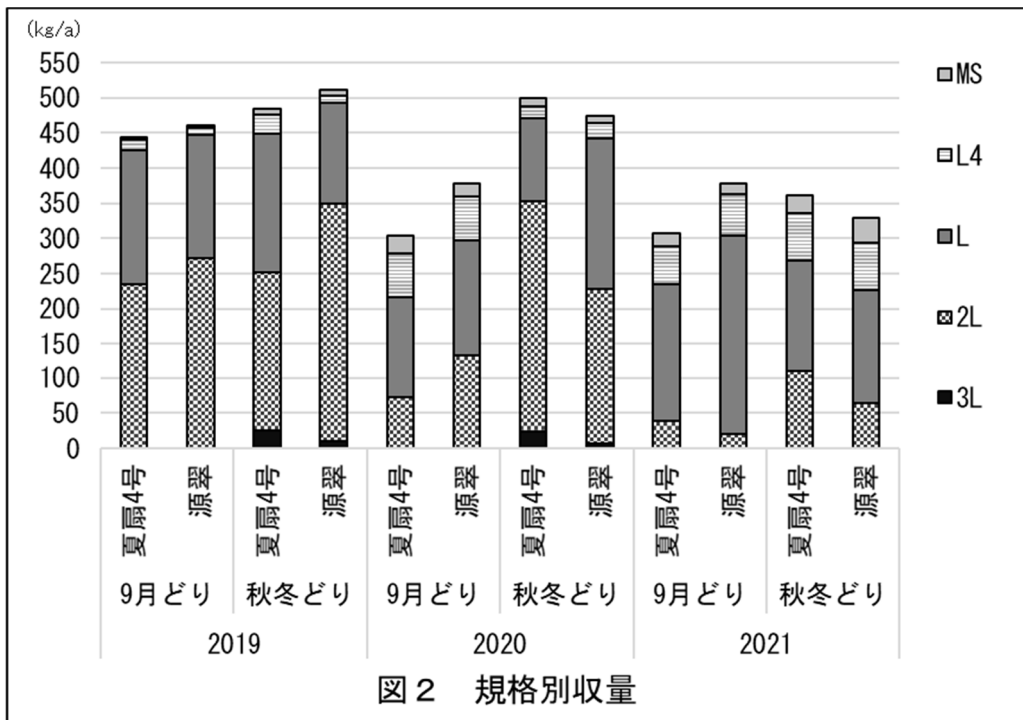
平均一本重は試験ごとのばらつきが大きいが、‘夏扇4号’と‘源翠’は概ね同等程度であり、上物収穫本数が多い分だけ収量性が高いと考えられる。‘源翠’の出荷ケース数は概ね100箱/a程度（JA鳥取西部の目標収量）かそれ以上と、高い水準で安定している。

#### 3) 品種特性

慣行品種‘夏扇4号’に比べて襟締りは同等程度で、首の伸びはやや小さい。腐敗の発生率も低く、在圃期間が長くなっても収量・品質低下は比較的軽微と考えられる。葉色はやや濃い傾向だが、生育後半に淡くなる場合があり、生育後半の肥効を高める等の工夫が必要と考えられる（データ省略）。

表1 収量調査

試験年度	品種	9月どり						秋冬どり					
		上物本数 (本/a)	上物収穫率 (%)	上物収量 (kg/a)	平均一本重 (g)	3L+2L+L率 (%)	ケース数 (箱/a)	上物本数 (本/a)	上物収穫率 (%)	上物収量 (kg/a)	平均一本重 (g)	3L+2L+L率 (%)	ケース数 (箱/a)
2019	夏扇4号	3075.8	84.6	444.4	144.9	92.3	122.9	3348.5	92.1	483.9	144.7	84.3	133.2
	源翠	3060.6	84.2	460.8	150.6	93.1	125.5	3500.0	96.3	511.5	154.2	90.4	141.1
2020	夏扇4号	2818.2	77.5	303.8	108.8	57.1	88.1	3272.7	90.0	499.5	152.6	83.4	137.7
	源翠	3121.2	85.8	378.6	122.0	67.5	106.9	3393.9	93.3	474.2	139.8	85.7	130.3
2021	夏扇4号	2757.6	75.8	307.4	112.5	68.8	86.9	3030.3	83.3	361.1	118.0	60.6	99.5
	源翠	3333.3	91.7	378.3	113.7	73.1	104.3	3121.2	85.8	330.0	106.8	56.6	96.0



### 3 利用上の留意点

(1) 普及の対象地域

日野郡等の標高の高い地域（砂質土壌を除く）

(2) 注意事項

- 1) カネコ種苗によると、「砂質土壌では、襟の緩みや葉の展開が大きくなる等、品質面や栽培管理上の問題が起きやすく、不向きである」との情報がある。
- 2) 生育後半の窒素要求量が比較的高い品種とされている。肥大性や品質を高めるには生育後半の肥効を高く保つ等、施肥設計の調整が必要と考えられる。

### 4 試験担当者

（ 日南試験地 研究員 前田 真吾 ）  
 （ 試験地長 小谷 和宏 ）